



# るうてる

2011年  
4月  
No.760

■発行所■  
日本福音ルーテル教会事務局広報室  
〒162-0842 東京都新宿区中谷砂土原町 1-1  
電話 03-3260-8631

■振替口座 ■ 00190-7-71734  
■ウェブサイト ■ <http://www.jelc.or.jp>  
■E-mail ■ [jelc@jelc.or.jp](mailto:jelc@jelc.or.jp)  
■発行人 ■ 徳野昌博 m-tokuno@jelc.or.jp  
■印刷 ■ 福音堂印刷株式会社  
■定価 ■ 1部 40円 (郵送料金を含む)

説教 [3・11をおぼえて]

## 誰がために鐘は鳴る

「イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることのない方です。」  
ヘブライ人への手紙13章8節



遠い昔、ある町の真ん中に高くそびえる教会の塔に大きな鐘があり、何でも、クリスマス・イブに良い捧げものがあつたときに、神様が美しい音を鳴らして下さると言います。でも長い間誰もこの音を聴いた人がいませぬ。

この町から遠く離れた小さな村に住むペドロとアントニオという兄弟は、おじいさんからこの教会の鐘のことを聞いて、礼拝に出てみたくなりました。

その年のクリスマス・イブがやって来ました。ペドロとアントニオは、どうしても教会に行きたくて、とうとうおじいさんに内緒で教会へ行くことにしました。その日は、雪が降るとも寒い日で、小遣いを貯めたお金を献金として持って、手をつないで一生懸命歩きました。辺りがうす暗くなってきた頃、二人が歩いていると真っ白になつた道の上に、ひとりの女

の人が倒れていました。もう冷たくなつており、兄弟は必死で起しました。そのかいあつて、おばさんは少し意識を取り戻しました。そこでペドロは、弟のアントニオにおばさんを放っておくことは出来ないで、お前だけでも教会に行くように告げ、ポケットから献金の銀貨を取り出し、アントニオに握らせました。そして、二人の献金は、人に見られないように礼拝堂の聖壇に、さりげなく置くように告げました。弟は一人で町に向かって急いで歩きました。その後姿を見ながら、あれほど楽しみにしていた教会に行けないことに、ペドロは涙を流していました。

この度の大地震は、未曾有の出来事で、そのことは時々刻々テレビや新聞等をおして連日報道されています。それを聞いて、自然に對する人間の無力さを感じるとともに、人間の歩んで来た道を再度思い起こされたりなりません。

今回の突然の大地震に、人は何が出来るのかと問い返すしかない私たちに、「イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることのない方です。」という言葉を持つて迫つてこられました。

この言葉の背景には、人間的なものには限界や終わりがありませんが、神には終わりがありません。先ほどの「奇跡の鐘」に登場する兄弟は、僅かな小遣いを貯めて捧げた献金でした。誰にも目立たないように祭壇に置いた献金、行き倒れの女性の介護ゆえに、教会の礼拝に出席できなかった兄、この兄弟のそれぞれの思

いと働きは、どちらもご覧になる神様の目には喜びであり、彼らのために教会の鐘が高らかに鳴り響いたのでした。

今、最愛の親子兄弟姉妹、親戚友人を亡くされた方、また家を失い、寒さに震えて暗い夜を過ごすことを余儀なくされて失意の直中に置かれ、明日の希望をも見出すことの出来ず、悲嘆と苦悩の直中に置かれている人々に、また私たちになお「イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることのない方」として、間違ひなく、明日への勇気と力、また大きな希望を供えて、ペドロとアントニオのために鐘が鳴り響いたように、「東北関東大震災」の被災者一人ひとりのために、またその救援活動を始めようとする私たちのために神の救いの鐘が鳴り響きます。共に、主と共に困難な道を勇気と希望を持って歩みましょう。

私たちの背後には、世界中のキリスト者、ルーテル教会の一人ひとりのお祈りがあることを思い起こし、被災者の方々と共に救援に向けて歩んでまいりましょう。

主イエスの御苦しみをおぼえつつ、

日本福音ルーテル教会  
総会議長 渡邊純幸

去る3月11日に起きた地震、津波による大惨事、いわゆる「東北関東大震災」により、亡くなられた方々に、心より哀悼の意を表しますと共に、「ご遺族の上に主の慰めと平安を心よりお祈り申し上げます。また、被災者ならびに被災地域の方々のご健康と、一日も早く元の生活に帰ることが出来ますようお祈り申し上げます。」

第8回 世界の子ども支援  
**上野由恵**  
フルートコンサート  
Helping Children in Need  
東北関東大震災救援チャリティコンサートになります

5月13日(金)	14:00/19:00	甲府教会
5月14日(土)	14:00	松本教会
5月15日(日)	13:30	保谷教会
5月16日(月)	16:00	小岩教会
5月19日(木)	10:00	田園調布教会
5月20日(金)	10:30	瑞田教会
5月21日(土)	14:00	知多教会半田礼拝所
5月22日(日)	15:30	清水教会
5月28日(土)	19:00	神水教会
5月30日(月)	10:30	玉名教会

主催 日本福音ルーテル協会、日本福音ルーテル教会世界宣教委員会

ルーテル教会の女子学生会館  
**文京カテリーナ**  
やさしい心配りにあふれた  
安心・快適なカレッジライフのために

個室 全160室  
(大学生向け連室あり)

東京都文京区千石二丁目30-12  
TEL03-3942-2291 FAX03-3945-2281  
<http://www.katerina.gr.jp> info@katerina.gr.jp

ルターによせて

今四旬節のさなかにあつて、私たちは主の受難を想う...

荒野の茨とあざみに刻まれた主の苦しみと憤怒の聲が、狂熱の裁きと憤怒の大波にさらわれ、丘の上に投げられ、十字架の下に鎮まつている...

ここに私は立つ。そうするほかはない。神よ助けてまえ。

この祈りはルターの祈りだが、今大地震と大津波を目の当たりにした者の祈りでもある。

私達は知っている。世の人は生の中で死の力に引きずり込まれ、恐れおののくが、信する者は死の淵にあつてなお主と共に生きることができる。

ルターは、チエコのヤン・フスが異端と断じられ、火刑に処せられたまほば百年後、同じことを主張した。それを罰するため西歐最大の帝国の王がヴォルムス議会上に彼を召し出し、その説を撤回しなければ、命が保証されないことが告げられた。一五二二年四月のことだ。ルターの「石」の聲はたちまち彼を奈落の渦に引き込んだが、不思議にも、彼は命を長らえて、やがて新しい世界を見晴らす場所立つ。

信徒の声

その場が求められる以上

大岡山教会 大和由祈

「任んでいるところがバラバラなのに、こうやって出逢えて仲良くなるってすごいことだね。」毎年夏に行われているルーテル子どもキャンプに参加していた小学5年生の女の子がふと口にした言葉です。

私は幼い頃から大岡山教会に通い、中学生になつてからは春の全国福音のキャンプ、教区の夏のキャンプ、アメリカのワークキャンプなどに参加してきました。そこでは、神さまと共に祈ることの出来る友との出逢いがあり、私たちキャンパーを愛で包みこんでく

れるスタッフの人たちとの出逢いがあり、そして神さまとの出逢いがあり、その中で私は「教会は出逢いの場だ」と感じるようになりました。そのような自分にとつて、自分がスタッフとして関わってきた小学5年生の女の子がこのような言葉を口にしたというのは、大きな喜びであり、また励ましとなったのです。

私は4年間の学生生活の間、毎年夏休みと春休みの間は教会のキャンプにスタッフとして関わってきました。キャンプによつては半年以上も前から準備を始め、その道のり

は長く険しく、時にはもう投げ出してしまいたいと思つこともありました。また、「この私たちの準備が、子どもたちにしきんと用いられるのだろうか」というような不安を感じることもありました。しかしながら、キャンプ当日のキャンパーたちの顔を見ていると、彼らも私がキャンパーだったところと同じように、この場での「かけがえのない出逢い」を求め、またその出逢いの中で喜びに満ちていくのが分かるのです。「若者が少ない」と言

われる教会の中で、このように若者のための集まりを持ち続けることとは決して容易なことではありません。しかしながら、私も含め教会に連なる子どもたちや若者たちがこのような場を求めていく以上、私もその場の一員

として、その働きのために用いられたいと思うのです。



左端が大和さん



Paivi Poukka  
ポウツカパイヴィ  
スオミ教会

牧師の声

私の愛唱聖句

知多教会 神崎 伸

「主の名を口にすまい／もつその名によつて語るまい、と思つても／主の言葉は、わたしの心の中／骨の中に閉じ込められて／火のように燃え上がります。押さえつけておこつとして／わたしは疲れ果てました。わたしの負けです。」

19歳の頃、大貫隆先生との出会いにより、「聖書を体系的に学ぶ」素晴らしいと豊かさに目覚めたわたしは、更なる研鑽を熱望して学院大学・神学校へと進んだ。初めから牧師になろうと思つて

いたのではない。教会に育まれてきた者として「信仰と学問」の統合への道を探りたかつたのである。

しかし、たとえどれほど内在する罪の問題にのた打ち回ろうとも、一切の主権は神にあるのだ。神がその口に、その体内に、御言葉を囁き込んでも神は御自身の意志を遂行してゆく。ただ、神の御心があるところに、御心のままに出来事が起こされ、貫徹されてゆく。このことを気づかせてくださった天王寺教会と真生幼稚園に、尽きぬ感謝を捧げます。

牧師とされ、御言葉に聴き、向き合う過程で痛感する。説教は人間によつてなされるけれども、この人間の言葉を通してしか、神の言葉は伝えられないというところを。人間の破れ、覆われた肉の働きを通してこそ、神の力が、福音が宣言されてゆくのだというところを。その



「わたしの子よ、学校に通つている時、天の天使はあなたのそばにいます。白い翼で守つてあなたと共に歩んで行く。わたしの子、小さく弱い子よ、天の天使たちはいつもあなたのために起きている。」

フィンランドで教師として働いていた時のいい思い出の一つは、祝福をもらうために教会に集まつた新しい一年生です。子供は両親と新しい先生と牧師と共に、感謝を込めて祈りました。学校で一人もいじめられることがないように、いい友達で生きていく先生と個性を活かしてくださる先生たちに出会えるように、などと願いました。私が、母か習つた歌を思い出します。

白い桜と翼



桜の花びらの下を始業式や入学式に向かう生徒たち。その中で特に目にとまるのは、真新しい洋服や制服を着た新一年生と、ドキドキしている親たち。日本の四月は多くの人にとって大人への自立の長い旅の始まりの第一歩の時です。

日本の学校と比べて、フィンランドの新学年は秋から始まります。1学年には2つの学期があり、秋学期が8月の中旬に始まつて、クリスマスまで続きます。春学期は1月の第2週ごろに始まり、学校の1年は6月の初めごろまでには終わります。日本とフィンランドは文化が異なりますが、どちらも教育を大事にする国です。親の心も同じです。子供が大きくなることは有難いことですが、心配もあることでしょう。

# 「創立百周年を迎える九州学院」 ～百年の想い世代を超えて～



九州学院理事長 長岡立一郎

今から100年前、1911年4月、熊本県熊本市飽託郡大江村に九州学院は開校した。当時、この一帯は桑畑が一面に広がる閑静な場所であった。

学院開校のため尽力されたC.L.ブラウン博士はアメリカ南部一致ルーテル教会から派遣された第3番目の宣教師であり、最初、佐賀で伝道し、1900(明治33)年12月10日には熊本での伝道に着手する



1909年、すでに熊本市新屋敷のスタイワルト先生が居住しておられた宣教師館を教室とし、福音路帖神学校が開校されていた。それに引き続き若者を育成すべく九州学院設立、その準備のためにブラウン先生は日々祈りを捧げ奔走し、アメリカ南部



一致ルーテル教会と掛け合って多額の募金協力支援を得たのである。一万坪の土地購入のため1万3600ドル、さらに校舎、寮建設を含め総額5万4000ドルの資金調達をなしたのである。これもブラウン先生をはじめとして当時の宣教師たちの祈りと働きなしには実現しなかった。またこの祈りに応えて南部一致ルーテル教会の人々の心が動き、無から有を生み出す働きに手を差し伸べ、歴史の一頁を開いていくこととなった。

最初の学院をスタートするためにブラウン先生にとってこの上なく幸運だったことは良くパートナー、しかも教育者としてのリーダーを得たことであった。それについてはブラウン先生自身も報告書に記しておられるように「自分の人生においては遠山参良先生という同労者を得ることができたことである」と。神のご計画はまことに不思議であるが、実に偉大である。自分のためだけでなく、人(他者)を助け、人を活かすための祈りとその働きは、最初、無であつても有あるものへと創造され、実を結ぶものだということをお伝えされる。学院開校とこれまでの道程は時に荊の道もあつたであろうが、神による奇跡の連続であつた。



草創期から校訓として「敬天愛人」を掲げ、し

わが学院は長い間、アメリカルーテル教会、宣教師社団(後の日本福音ルーテル社団)さらに日本福音ルーテル教会の人的かつ経済支援を得て歩むことができたのである。

も初代院長・遠山先生が言い残された「自分を監督し、役に立つ善人となれ」を教育目標にして青少年の育成に尽力し、今日まで取り組んできているのである。



過ぐる10年間、中学校を強化し、環境整備もかなり整えてきた。その結果、中学校から他校の難関校を突破する卒業生を多く輩出するようになり、九中は難しいといわれるまでになっている。また高校においては文武両道の伝統を継承し、毎年、いくつものクラブ(10年度は、陸上・駅伝、剣道、水泳が全国

優勝を遂げ、熊本県のみならず全国区の私学伝統校として活躍している。

創立百周年を迎える学院は10年来、中長期計画を建て、将来にも揺るがない盤石な財政基盤作りを目指し、取り組んでいる最中である。その改革の第一は、中高ともさらなる質的向上を図るべく教育的なアップを目指している。第二に、人事給与・施設整備検討委員会を立ち上げ、その改革を推進しているところである。

最後に、百周年記念の諸事業、計画をご紹介して筆をおくこととしたい。まず事業として、①百周年記念体育館の建設、②2号館リニューアル、③百年記念史の刊行、④歴史資料室設置、⑤九州学院ルーツを訪ねる旅(ノースカロライナ、サウスカロライナ)の諸教会を8月21(29日まで表敬訪問)、⑥記念礼拝(本年11月17日)、⑦記念式典と祝賀会(11月18日)、⑧招待試合の開催(6(9月)、その他)。

事業予算として、総額5億1000万円を設定し、事業計画を実施しようとしている。学院内外の募金は1億円を目標としている。

# 2010 年度集計表分析 (総括)

日本福音ルーテル教会宣教室

皆様のご協力により 2010 年度集計表のデータがそろいましたので、宣教室ではこのデータを分析・総括してみました。

## [まとめ]

- 洗礼者総数** 昨年(144名)よりも18名増加し、162名(教区別:北6、東65、東海28、西28、九州35)。
- 教会員総数** 21,938名であり、前年度比95名の減少である。
- 全教会を合わせた年間平均礼拝出席(主日)**  
総数は3,524名であり、一教会平均約30名となり、これは前年度の32名を下回る。種別平均礼拝出席を見ると、1種教会(48)49名、2種教会(61)17名、3種教会(10)13名。
- 全教会の収入**  
減収傾向が顕著の動向を示している。その内訳を見ると、総収入は4%減、基礎収入は5%減、礼拝献金2%減、維持献金は1%減、特別献金は8%減といずれも減収。全教会の維持献金口数と平均献金額は、昨年度の総口数4,167、月別平均献金額8,887円に対して、今年度は全教会総口数が4,106、月別全国平均献金額は昨年よりも400円下がり、8,471円(東8,337円、東海9,313円、西8,175円、九州8,346円、北海道8,389円)であり、単年度の洗礼者の増加に見合った献金の増収結果は見られない傾向が継続している。

## 1. 総会員数

年度	1971	1979	1987	1995	2000	2005	2008	2009	2010	対比
総会員数	17,225	19,477	20,839	22,367	21,967	22,126	21,990	22,042	21,938	127%
現注册会员	8,112	8,490	8,798	8,798	8,945	8,470	8,034	8,246	8,261	101%
現住/総会員	47%	44%	42%	42%	41%	38%	37%	37%	37%	
別帳会員	7,184	9,409	10,562	11,455	11,435	12,101	12,292	12,291	12,256	171%
別帳/総会員	41%	48%	50%	51%	52%	55%	56%	56%	56%	

2010年度の総会員数は、1971年との比較をみると、171%の増加を示している。現注册会员は僅かの増加であり、101%にとどまっている。そのために、総会員数に対する現注册会员の比率は、問題は年度を重ねるに従って、減少してきている。つまり、実質的・活動的な教会員の割合は全体的に減少傾向にあると言える。さらに、注目すべきことに、別帳会員数が現注册会员数を上回っている。この傾向は1970年代後半から顕著な現象である。

2010年度現在で分析すると、現注册会员数との対比で、別帳会員が多い教会は、全国比率では69教会(56%)である。その内訳を種別毎に見ると、1種教会では29教会(全体の60%)、2・3種教会では36教会(全体の50%)である。別帳会員数の占める割合が、年度毎に増加傾向にある。ということは、活動会員の全体に占める割合が少なくなってきたことは歴然たる結果になっていると言える。

## 2. 受洗者数

年度	1971	1979	1987	1995	2000	2005	2008	2009	2010	対比
洗礼総数	511	326	296	229	220	172	143	144	162	31%
大人/男	98	81	65	65	52	39	46	40	52	52%
	19%	25%	22%	28%	24%	23%	32%	27%	32%	
大人/女	204	108	132	93	106	75	65	58	75	36%
	40%	33%	45%	41%	48%	44%	45%	40%	46%	
子供	209	137	99	71	62	58	32	46	35	16%
	41%	42%	33%	31%	28%	34%	22%	31%	22%	

上記の統計表でも明らかなように、1970年代より、受洗者数の低落傾向は継続的に続いている。1971年度を100%とすると、2010年度は31%に下がっている。この長期低落傾向は、日本福音ルーテル教会だけに限ったことではない。右上表の教派別受洗者数を見れば分かるように、受洗者数の減少はいずれの教派においても歴然としている。1970年度を100%とすると、2009年度との対比はいずれも減少しており、日本基督教団が日本福音ルーテル教会とほぼ同じ27%であり、その他は聖公会が35%、カトリックが58%となっている。ただし、バプテスト連盟だけが185%と増加傾向を維持している。

## 3. 教派別受洗者数

39年間

年度	1970	1980	1994	2000	2005	2009	対比
JELC	515	382	245	220	172	144	28%
日本基督教団	4,558	3,248	2,180	2,057	1,249	1,249	27%
聖公会	1,122	931	746	578	532	394	35%
バプテスト連盟	934	855	761	707	673	1,726	185%
カトリック	12,056	10,647	9,957	9,087	7,425	7,017	58%

日本福音ルーテル教会の洗礼の減少傾向にある遠因の一つは、教会数の減少にも求められる。以下の表は1970年以降の日本福音ルーテル教会の教会数の変遷である。1970年度を100%とした場合の2009年度との教会数は84%である。1970年中頃までは、開拓伝道的教会が数は少なくても新規で開始されていたが、1980年代に入ると財政的に伸び悩みもあり、過疎地の教会の閉鎖と統合が始まり、さらに1990年代以降は、複数共同牧会及び合同・連合の取り組みが教区の中で具体的に実施されたこともあり、教会数の減少傾向に影響していると判断できる。

## 4. 教会種別受洗者数

1971 年度対比

年度	1975	1981	1985	1990	1995	2000	2005	2009	2010	対比
1種洗礼総数	257	198	182	183	154	147	121	111	118	45%
1種平均洗礼数	4.5	3.4	3	2.7	2.2	2.1	1.9	2.3	2.4	
2種洗礼者総数	98	95	74	67	63	56	45	31	38	36%
2種平均洗礼数	1.8	1.5	1.2	1.2	1.1	1.1	0.9	0.5	0.6	
3種洗礼総数	45	19	12	22	12	17	6	2	6	24%
3種平均洗礼数	0.6	1	0.6	1.5	0.8	1.2	0.5	0.1	0.6	

年間受洗者数が700を数えた1952年の日本福音ルーテル教会は合同前であり、教会数は45教会であるので、1教会15名の洗礼者が生まれたことになる。それが1967年には受洗者数がその前の年まで、600名台であったのが、500名に落ち込み、1970年代からは400名台になり、さらに1989年からは300名切り、100年事業以後の1995年でも、200名台に入り、229名を数えるようになった。

### 緊急アピール

## 東北関東大震災救援活動についてお願い

去る3月11日に起きた地震、津波による大惨事、「東北関東大震災」により、亡くなられた方々が神の慈しみにより、平安を賜うようことを心よりお祈りしますと共に、傷つき、家族、家、その他多くのかげがえのない大切なものを失い、悲しみの内にある方々の上に神の憐れみと慰めが注がれ、復興に向けての生きる力が与えられますことを心よりお祈りいたします。

日本福音ルーテル教会は、3月14日、救援対策本部を設置して募金の呼びかけと情報収集を開始いたしました。

今後、救援対策本部は被災地区の教会(仙台・鶴ヶ谷)と連絡を取りつつ、諸教派(カトリック教会、聖公会等)の活動と協働しながら必要な支援活動と救済活動を進めていくようにいたします。

救援対策本部を中心に推進される救援募金及び支援活動に各教会、教区、関連施設からのご協力をよろしくお願いいたします。

2011年3月15日  
日本福音ルーテル教会 総会議長 渡邊純幸  
救援対策本部長 青田 勇

▼緊急募金の送金先▼  
 募金を捧げてくださる場合には、郵便振替用紙に「東北関東大震災」と明記して、以下の口座に送金くださるようお願いいたします。  
 郵便振替: 00190-7-71734 名義: (宗)日本福音ルーテル教会

海外からの支援方法についてはJELCホームページ  
<http://www.jelc.or.jp/events/> をご覧ください。